会議録

会議の名称	第4回　西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成23年2月24日　14時30分から16時20分まで
開催場所	保谷庁舎　2階　第1会議室
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、長谷川委員、石黒委員、冨岡委員、本橋委員、宇田川委員、柴田委員、飯田氏（臼井委員代理）、櫻井委員 事務局：宮坂主幹、稲船主事、東京都農業振興事務所　小澤農政係長 梅澤委員は所用により欠席、臼井委員は所用により欠席する為飯田氏が代理出席
議題	1．開会 2．議題 （1）実施計画（案）について （2）その他 フォーラムについて
会議資料の名称	資料1　西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業　実施計画（案） 資料2　第3回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会　会議録（案） 資料3　援農ボランティアアンケート調査の概要（案） 資料4　会議録の修正について
記録方法	□全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 □会議内容の要点記録

会議内容

1．開会

○会長：

　議題に入る前に、本日は梅澤委員が所用で欠席、臼井委員は所用により欠席する為飯田氏が代理出席、冨岡委員は遅れるとのこと、柴田委員は所用により途中退席する。

　本日の議題1では、前回委員会で意見を頂いた内容を実施計画（案）に反映しているので、内容を確認して実施計画を決定したいと思う。この実施計画のポイントとしては、昨年度のモデルプランの中から実現・実施可能な案件が挙がっている。具体化に向けての内容になっているかと思うので確認をしていきたいと思う。資料1の事務局からの説明については、主に前回からの修正個所について重点的に説明をしてもらいたいと思う。

2．議題

（1）実施計画（案）について

○事務局：
　配布資料の確認。
　委員より、資料2の会議録について訂正の指摘を頂いているので、資料4に記載されているように、委員からの指摘の通りに修正を行う。その他の修正点は、資料1の目次の2-6「市全域」を「市域」へ変更する。1ページの東京大学大学院農学生命科学研究科付属生態調和農学機構の「付属」の漢字を「附属」へ変更。13ページ（3）の「田無駅北部」を「田無駅南部」へ変更。

○事務局：
　資料1の1～4ページについて説明。

○会長：
　1ページでは事業の実施計画の位置づけという中で、本事業においては一つの一つの施設をつくって終りということではなく、連携をしながら各エリアの特徴に合わせた事業を展開していくということで、平成23～25年度に事業を実施し、特に平成24、25年度においては柔軟に計画を立てていこうということが書かれている。またエリアの話については、4ページの4つ目の○の内容は、エリアの区域については変更可能なものであるという認識をしている。3ページの図面で各エリアの区域を示してあるが、田無駅南部エリアでは事業協力農家が区域外にもいるとのことなので、実施計画においてはエリアの区域を協力農家が入るように修正しても良いのではないか。

○副会長：
　事業協力農家がいるのであれば、実施計画なので区域を変更しても差し支えないと思う。

○会長：
　是非そのように修正していただきたい。平成23年度では保谷駅北部エリア、平成24年度では保谷駅南部エリアの事業を実施するということで、平成23年度について予算化をしているかと思うが、近々に平成24年度の実施事業についても予算等の内容を検討していく必要がある。平成25年度の東大生態調和農学機構と周辺エリアについては、東大生態調和農学機構でのキャンパス整備プランに遅れが出ており、本事業での事業計画内容を見直す必要があるのかもしれない。

○委員：
　実施計画（案）の中で「市全域」を「市域」に全て変更するということだが、私としては市全域という文言の方が理解し易かった。

○事務局：
　庁内では市域という表現を用いることが多々あるので、市域で統一を図りたいと思う。

○委員：
　5ページ、10ページの各エリアでの事業の実施方針で「エリアの顔づくり」という

表現が用いられているが、13ページでは「エリアの顔となる軸づくり」という表現になっている。これらの違いは何か。

〇事務局：
同じ意味なので、「エリアの顔づくり」という表現に統一をしたいと思う。

〇委員：
16ページの（2）実施事業の概要と実施主体で「商工団体」が実施主体として挙げられているが、商店や飲食店のことを指しているのか。

〇事務局：
その通りである。

〇委員：
14ページの東大生態調和農学機構は機構のみでの話で、東大生態調和農学機構周辺エリアという表現の時は、東大生態調和農学機構自体は含まれていないという認識で良いのか。

〇事務局：
そのように捉えていただきたい。

〇会長：
14ページの話は、「東大生態調和農学機構および周辺エリア」という書き方をしているものは機構も含まれている。また、このエリアに関しては、西東京市の中心的部分であり、位置的にも幹線道路にも面しているので、機構と上手く連携しながら総合的にエリアで事業を行おうとしているということである。

〇委員：
私も伊藤会長と同様の解釈であるが、例えば14ページ（2）のリード文では東大生態調和農学機構での整備事業という書き方をしているので、ここに関しては周辺エリアは含まれないという認識で良いのか確認したかった。

〇伊藤会長：
今の委員からの指摘は大変重要なポイントだと思う。事務局としての考えを伺いたい。

〇事務局：
（仮称）ファームセンター整備については、周辺エリアとは分けて考えており東大生態調和農学機構の中で行う整備という考え方である。また、今後周辺の農家とも連携が図れるようになれば、一体的なプログラムに変わっていく可能性がある。先日の東大生態調和農学機構の説明会では、ファームセンターをつくった場合も地域の農業者との連携は密に欲しいとのことなので、近隣の農家とは農産物の供給や情報交換等で連携していくことについては一体的なプログラムとして考えていきたいと考えてい

る。

〇会長：
（仮称）ファームセンター整備の実施主体として「市」を挙げているが、西東京市の事業ということなのか。

〇事務局：
　市の事業として位置づけていくが、今後東大生態調和農学機構と実施に当っては、資産に関連する話になるので細かい調整を図っていくかと思う。事業整備に対して市が補助を行うという考え方なので、実施主体として市を載せている。市域内の農家への補助と同じ扱いなら、所有者は東大生態調和農学機構になると思うので、この辺は調整をしていきたい。

〇副会長：
　市とそれぞれの実施主体が共存して行うという意味ならば、市を実施主体として挙げているのは納得がいく。キャンパス整備計画は平成25年度から入る予定で、市の事業は平成25年度で終了となるので、この辺を上手くリンクできれば、市の事業として行えるかと思う。キャンパス整備計画が予定よりも遅れてしまう可能性や整備を開始する場所が敷地の北側から行う場合、東大生態調和農学機構の整備計画が無くなってしまう等が考えられるので、曖昧な表現になってしまっているのではないか。東大生態調和農学機構をコアとしたまちづくり事業から機構が抜けてしまう可能性もあり、機構が参加しないから事業が成り立たないということを避ける為にも、エリアの農家や公共機関やJA等にお願いして、コアとしての役割を替わり置いてもらわないと、事業そのものがうまくまわっていかなくなるのではないか。

〇事務局：
　事務局としても東大生態調和農学機構および周辺エリアの事業が一番気がかりである。4ページの先ほどの伊藤会長から説明があったように、適宜見直しを行うということを明記している。

〇会長：
　そういう意味では、先ほど委員から話のあった14ページの（2）、（3）の東大生態調和農学機構および周辺エリアとしておいて、資産としては東大生態調和農学機構の所有のものになるかもしれないが、補助をして事業の目的を立てて動いていくという意味では、市が行う部分を限定して実施主体は市だと書いておかないと、あとで足かせになる可能性があるのではないか。例えば東大生態調和農学機構の敷地を使えない、ただその周辺エリアでコアになる事業を行えるといった時に、既存14ページの内容では成り立たなくなってしまうのではないか。

〇事務局：
　および周辺エリアと付け加えることで、対応できるかと思うので指摘の通り修正したいと思う。

〇委員：
4つのエリアの拠点整備に関しては、全ての事業名に（仮称）がついているが、いつどの段階で（仮称）はなくなるのか。本委員会で承認することは可能なのか。

〇会長：
実際に事業が動き出す時に（仮称）はなくなるのではないか。

〇事務局：
事業の予算要求の際は（仮称）はついたままで行い、事業が試行される際に（仮称）がなくなる。

〇会長：
事務局から資料1を全体的に説明してもらったが、内容的には1～4ページまでの全体の話、5～14ページまでのハードに関するエリア毎の実施計画、15ページ以降は市域に係るソフト事業の実施計画、という内容が大きく分けて3つあったかと思う。今日は実施計画に対する意見を伺う最後の機会になるので、意見があればお願いします。

〇委員：
（仮称）「花摘みの丘農園」に関して提案がある。花摘みで残った花を、田無のJA東京あぐりが開催している水曜日の市で販売してはどうか。また、市内の学校の入学式や卒業式の花として活用し、その際はどこの誰が生産した花だということを一言説明を加えてやれば、事業自体のPRにもつながるのではないか。その他にも市内で行う映画祭等様々な行事で活用が考えられるので、市の方から農家へ声かけを行い、販路を開拓してあげてはどうか。一農家だけで販路を開拓するのは難しいのではないか。老人ホームやデイサービス等でも環境整備で（仮称）花摘みの丘の花を活用することも可能なのではないか。

〇会長：
平成23年度に実施する（仮称）花摘みの丘についての、事業者へのサポートの意見をいただいた。JAとして何かあれば意見をいただきたい。

〇委員：
JA東京みらいでは、月に1回の販売しか行っておらず、本事業とからめて販売を行う等どうのような規模になるかは未定である。現段階では協力農家が安定した出荷ができるのかが不明だと思う。3月から開催される「ファーマーズマーケット」でなら対応が可能かもしれない。市場出荷に関しては、切花は専門の栽培品ではない為、B品扱いになってしまい儲けはほとんど出ないかと思うので、やはりファーマーズマーケットを活用するしか今のところ思い浮かばない。

〇会長：
協力農家の経営に関しては、各JAからもサポートいただければと思う。本事業での販路についてもJAがサポートできる可能性はあるのではないか。

○委員：
　東大生態調和農学機構の拠点が出来上がれば、事業として動き出すかとは思おうが、今の状況ではタイミングが合わない。また、めぐみちゃんマーケットが始動すれば、協力農家の販路としても可能性があるが、具体的な動き方が現在は未定なので何とも言い難い。田無駅南部エリアの多摩湖自転車道路は、利用者が多数いるので、マーケットとして活用ができるのではないか。

○会長：
　以前の委員会でも委員の発言の中でもあったが、整備を行うだけではなく、市民のもとへ届くような直売機能というのは大切だということが伝わればと思う。そういった意味では、先ほどの東大生態調和農学機構および周辺エリアについても、周辺エリアを加えたのは直売機能がが外れないようにしたいからである。めぐみちゃんマーケットの話については、まずはエリア毎に試していって、4エリアにまたがって行いその延長線上に市域で実施していくという計画になっているかと思う。予定としては24年度の秋以降になるかと思う。また、（仮称）「花摘みの丘農園」に関しては、少しずつ様子を見ながら経営をしていくことになるかと思う。

○事務局：
　めぐみちゃんマーケットについては、15ページのような内容になっているが、ポイントとなるエリアを設定できたところから順次開始していく。同ページ（2）の実施事業の概要については、「既存の地場産品の販売と取り組みの連携」とあるが、前回の委員会でいただいた新たな場所に直売を設けるという意見、または市内のイベントや商店街と連携して行う等、エリアの拠点ができる前にマーケットを開催できるかもしれないし、場所だけではなくタイミングもみながら開始していきたいと思う。また、野菜の直売だけではなく、切花や植木についても今後調整をしながら出来る部分については取り組んでいきたいと思う。

○会長：
　先ほど、委員から学校の行事（入学・卒業式）で（仮称）「花摘みの丘農園」の花を活用する話があったが、既に学校と連携して行っている取り組みは何かないのか。切花に関しては学校との連携の可能性はあるかと思う。花に限らず、地元の農産物と学校で連携を行っているということが現在あれば説明いただきたい。今後教育の現場で活かしていける可能性があるかどうかを私的な意見でも構わないので聞かせて欲しい。

○委員：
　学校給食に関しては、地場産の農産物を取り入れている取り組みがあると聞いている。先ほど提案のあった（仮称）花摘みの丘農園と提携して花の活用を行うことについては、学校行事（入学・卒業式）での活用は考えられる話なので、学校関係者へ伝えることはできる。現況では、学校行事（入学・卒業式）の花の準備は学校単位で行っている。

○会長：
　地元の農家と地元との連携というところで何か情報があるかと思うので、活用してもらいたい。

○副会長：
　市内の学校給食の導入は、順次取り組み開始の状態で、教育委員会が先頭に立って地場産野菜等の活用を進めていってはどうか。

○委員：
　先日、市内の学校の栄養士と農家で話し合いの場を設けたことは聞いている。

○副会長：
　学校給食の件に関しては、体系的にリーダーシップをとっていくところがなく、個別に交渉を行っているので、学校給食の地場産品の活用については、システムを構築して取り組んでいく必要がある。今のままではいつまでたっても学校給食のへの地元産の食材の提供率が上がらない。数値目標を決めて指導していかないと。是非ともチャンスをつくってもらいたい。

○委員：
　教育委員会で、本日の皆さんの意見は検討材料として伝えていきたいと思う。

○副会長：
　以前、食育の検討機関があったが、話だけはできるが具体化しないでレポートに載せるだけで、どこがどのように取り組むといったことにはふれない。本委員会はまちづくりを検討する委員会なので、地場産をPRしたりよういうことがあってもいいのかと思う。もっと実施に向けて、このような検討内容が広がっていけば、弁当やメニューも派生的に広がっていくのではないか。是非お願いしたい。

○事務局：
　先ほど話にあった、先日の学校給食に関する意見交換会には私も出席したが、学校給食が始まるの伴い、昼休みまでに給食を準備しなくてはならず、それに向けてある程度の規格の野菜を使うことで調理時間を短縮できるので、とても都合が良いとのことだった。野菜の皮を手で剥いていると給食の時間に間に合わなくなってしまう。先日は意見交換会ということがたが、会自体は西東京市合併当初は行われていたが、先日の会は数年振りの開催だった。そこで出された意見が市内産野菜の活用の充実に向けて役立っていけるのではないかと思う。今後そういった話をどういった場で話していくのかということが、今後の調整になるかと思う。

○会長：
　今の事務局の話が今後の事業につながっていくかと思う。西東京市の農家を残していくということに、多面的機能の中に含まれる食育があるので、そういった意味で16ページの「みんあでつくるめぐみちゃん弁当、メニュー等の開発」は、地産地消の取り組みを市民に周知し、農への関心を高めるということは、メニューをつくることな

ので、食育を加えることができるのではないか。子どもたちへのメニューの提供等ができるのではないか。せっかく本委員会の委員の中に教育委員会の人もいるので、こういった食育を実施計画の中でうたっておくと、本事業にからめて位置づけが出来、可能性が広がるのではないか。

〇副会長：
　大きな意味では食育ということも含まれているかと思うので、上手く言葉を選んで組み込んでもらいたい。

〇事務局：
　先日の会議でも本事業においては実施計画を策定し、企画課で行っている食育推進計画、産業振興課で行っている産業振興マスタープランがあり、平成25年度において、食材やメニューを作ったり、実施するタイムスケジュールになっているので、文言調整等は今後会長と事務局で行っていきたいと思う。

〇会長：
　16ページの事業名は「めぐみちゃん弁当、メニュー等の開発」ではなく「めぐみちゃん弁当・メニュー等の開発」の方が適切ではないか。

〇事務局：
　指摘の通りに修正する。

〇委員：
　めぐみちゃん弁当についてだが、お弁当の中身を全て市内産のものでまかなうのは無理があるのではないか。市内産の品が1品でも入っていれば、めぐみちゃん弁当として認証してはどうか。活性化をする為には敷居をもう少し低くする必要があるかと思う。

〇副会長：
　私も賛成である。

〇会長：
　ソフト事業に関しては、具体的な事業の内容を未だつめきれていない状態という話だったかと思うが、どうなっているのか。

〇副会長：
　現在、市内の農家で直売を行っている店先には、共通ののぼり旗が立ててあるかと思うが、同じようなものを商店街等に立てれば事業のPRにつながるのではないか。

〇委員：
　めぐみちゃん弁当やメニューを考えると、補助金等の支援が得られるのか。

〇事務局：

現在のところ詳細は何も決まっていないので、これから事業の実施主体で具体的な内容について協議していきたいと思う。

〇委員：
めぐみちゃんマーケット、めぐみちゃん弁当・メニューについては、エリア毎の実施計画とは趣きが違い、専門的で知識や経験が必要となってくるのではないか。より具体的なものをつくるには、専門の人を体制の中に組み込んだ方が良い。

〇会長：
平成23年度からのしくみづくりは、タイムスケジュールのみ決定しているので、残っている課題を確認して、実際に計画をつめていく時の体制も検討していく必要がある。

〇副会長：
予算は入っているのなら、栄養士や商店等にお願いをして形をつくっていかないと、なかなか前に進まないかと思う。

〇事務局：
特にめぐみちゃん弁当やメニューについては、産業振興マスタープランと最終的に行き着く先は同じだと思うので、どこかでそういう場を設けていきたいと思う。

〇委員：
ソフト事業も各エリアで取り組むのであれば、全地域で行う際の組織を立ち上げて取り組んでいった方が良いのではないか。

〇会長：
どのような体制が事務局は考えられるのか。

〇事務局：
組織の立ち上げは可能だと思う。進行方法は改めて検討したいと思う。

〇会長：
本事業の委員会は来年度も行うので、その際に具体的な内容を報告してもらいたいと思う。

〇東京都：
7ページの図面上のテキスト部分に北の矢印がかかっているので修正願いたい。全体を通して写真を追加した方が事業のイメージがもっと伝わり易く、またページの余白を埋められると思う。

〇事務局：
指摘の通りに修正したいと思う。

〇委員：
　（仮称）「事業名」は「（仮）事業名」となるのか。表記を統一していただきたい。

〇事務局：
分り易く統一をしたいと思う。

〇事務局：
資料3援農ボランティアアンケート調査の概要（案）について説明。
これらの調査結果を反映して、農のアカデミーで活かしていきたいと思う。

(2) フォーラムについて
〇事務局：
2月26日（土曜日）に開催される第1回西東京市都市農業フォーラムでは、基調講演を武蔵大学教授の後藤先生に行ってもらう。後藤先生には都市農業についてお話をしていただく。

以上